

Tacrolimus for Remission Induction and Maintenance Therapy in Patients with Ulcerative Colitis: A Retrospective Evaluation Study

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 亜由美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032172

主論文の要旨

Tacrolimus for Remission Induction and Maintenance Therapy in Patients with Ulcerative Colitis: A Retrospective Evaluation Study

難治性潰瘍性大腸炎に対する Tacrolimus (TAC) の寛解維持効果に関する検討

東京女子医科大学消化器内科学教室

(指導：徳重 克年教授) ㊞

伊藤 亜由美

Gastroenterology Research and Practice Volume 2016 (2016),
Article ID 5956316, 6 pages (平成 28 年 5 月 8 日発行) に掲載

【要 旨】

難治性潰瘍性大腸炎 (UC) に対する TAC の有用性, 特に寛解導入後の維持効果について検討した. 検討 1) 難治性 UC に対し PSL で寛解導入された PSL 群と TAC で寛解導入された TAC 群を対象とした. 両群間で臨床データ及び内視鏡スコア, PSL の総量, 寛解導入後の PSL 離脱率, 再燃率を検討した. 検討 2) TAC の寛解維持効果について, 寛解導入後, ①TAC を長期少量投与し寛解維持を行った TAC 群, ②アザチオプリン (AZA) のみで寛解維持を行った AZA 群, ③TAC と AZA の併用で寛解維持を行った. TAC+AZA 群について 3 群間で再燃率を検討した. 結果, 罹患期間は TAC 群で長く, 臨床症状, 内視鏡所見も重症であった. PSL 離脱率は TAC 群で有意に離脱可能であった. 再燃率も有意に TAC 群は再燃を抑えた ($P < 0.05$). 2) については全ての検討項目で有意差を認めなかった. PSL 群では PSL 離脱が困難になっており TAC による寛解導入が望ましいと考える. 重症例でも TAC による寛解導入例では寛解導入後の PSL 離脱, 再燃率が良好な結果であった. 難治性 UC に対して TAC は寛解導入及び寛解維持療法としての有用性が期待でき, 難治性 UC に対する治療の選択肢の 1 つになる可能性が示唆された.